住民アンケートの結果

(平成18年12月～平成19年1月実施)

目　　次

はじめに　１ページ

住民アンケートの実施方法　１ページ

住民アンケートの回答者の状況　１ページ

居住年数　４ページ

ご近所付き合い　４ページ

居住年数とご近所付き合いとの関係　６ページ

地縁（地域住民の交流や助け合いなど）の必要性　７ページ

地域でのボランティア活動について　８ページ

地域情報の入手方法　９ページ

ボランティア活動について　１１ページ

社会福祉協議会の認知度　１３ページ

社会福祉協議会が積極的に実施すべき事業について　１５ページ

参考資料：住民アンケート用紙　１７ページ

はじめに

この住民アンケートは、第３次地域福祉活動計画の策定を踏まえ、今後の地域福祉の方向性や重点を探り、より効果的に地域福祉の推進をするために、平成１８年１２月～平成１９年１月（約１ヶ月間）にかけて、地域住民に対してアンケートを実施しました。

今回の住民アンケートでは、１５歳以上の人口約１１万５千人に対して、おおよそ１００人に一人の割合、つまり、１，１５０人を目標としたが、目標数に届かず、１，０５８名の回答となりました。

住民アンケートの方法については、今後、検討する課題が多かったが、このアンケートで、地域住民のニーズを少なからず把握できたのではないかと考えている。また、この結果を踏まえて、今後の地域福祉推進の為の各種事業に役立てていきたいと考えている。

住民アンケートの実施方法

市内の自治会組織（１７５自治会中８５自治会）に依頼し、おおよそ男女を均等に、年代層を決めて、任意で選んでいただき、自治会毎に依頼、アンケートを回収していただいた。その他、保育園での父母への回答を依頼や街頭によるアンケートを実施した。

配慮した点

① 男女均等にすること。
② 人口統計（年齢層）と合うようにすること。
③ ①・②を除き、無作為であり、無記名であること。

実施時期：平成１８年１２月～平成１９年１月（約１ヶ月間）

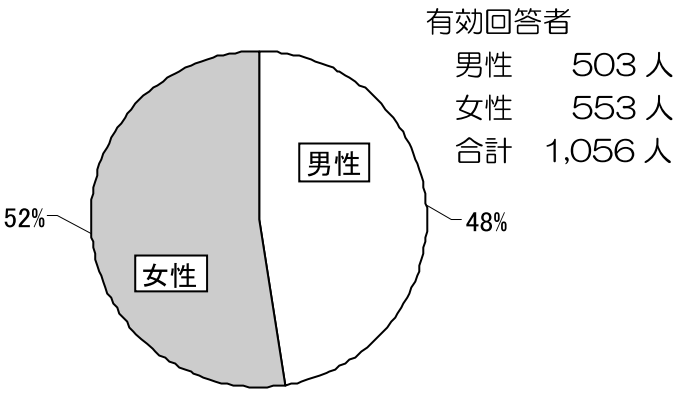
住民アンケートの回答者の状況

〔１〕男女の割合

平成１８年１２月１日現在
我孫子市の人口　132,398 人

住民アンケートの対象となる
15 歳以上の人口
男性　　56,568 人（49,30%）
女性　　58,172 人（50,70%）
合計　114,740 人

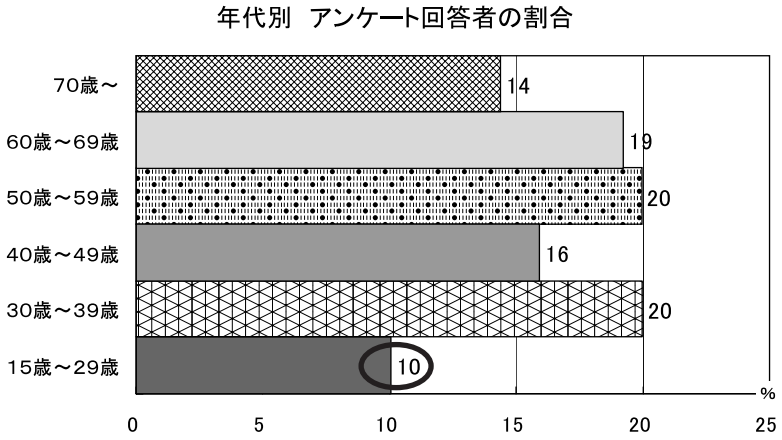
住民アンケートの回答者　男女の比率



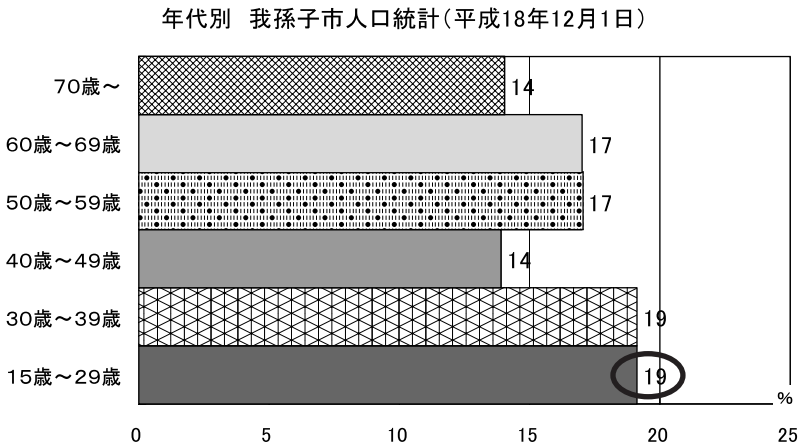
- 我孫子市の人口の男女比と比べ、約１%のズレが生じた。
- おおよそ住民 108 人中１人の割合で、回答いただいた。

2〕人口統計と回答者　年代層の比較

年代	回答数
７０歳～	152（14.4%）
６０歳～６９歳	203（19.2%）
４０歳～４９歳	168（16.1%）
３０歳～３９歳	211（20.1%）
１５歳～２９歳	106（10.0%）
合計	1056（100%）



・人口統計とのズレが特に大きかった年代は、「15 歳代～29 歳代」。対象人口に対する年代の割合では、１９%だが、回答者の割合は、10%であり、この年代層からの回答が少なく、それがその他の年代の割合を引き上げた結果となった。
・若年層で人口統計とのズレが大きかったが、幅広い年代から回答を得ることができた。

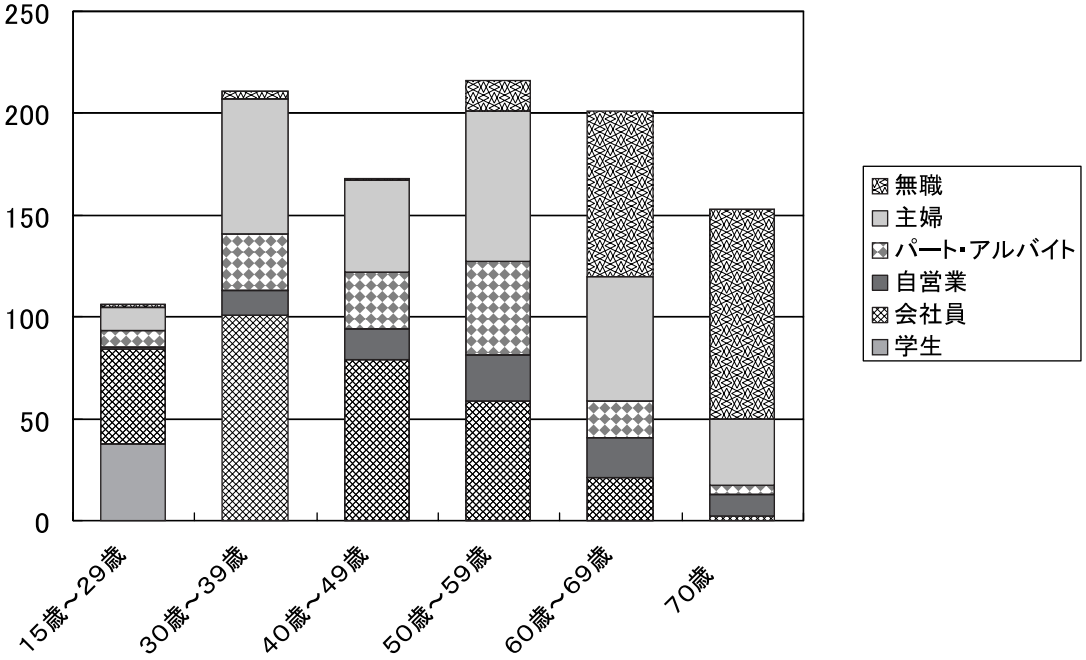


3〕生活状況

有効回答数　1,055 名　（）内の%は、年代毎の比率。■は、最も多い生活状況。

年代	学生	会社員	自営業	パート ｱﾙﾊﾞｲﾄ	主婦	無職	合計
１５歳～２９歳	38 （35.8%）	46 （43.4%）	1 （1%）	8 （7.5%）	12 （11.3%）	1 （1%）	106 （100%）
３０歳～３９歳	0	101 （47.9%）	12 （5.6%）	28 （13.3%）	66 （31.3%）	4 （1.9%）	211 （100%）
４０歳～４９歳	0	79 （47.0%）	15 （8.9%）	28 （16.7%）	45 （26.8%）	1 （0.6%）	168 （100%）
５０歳～５９歳	0	59 （27.3%）	22 （10.2%）	46 （21.3%）	74 （34.3%）	15 （6.9%）	216 （100%）
６０歳～６９歳	0	21 （10.4%）	20 （10.0%）	18 （9.0%）	61 （30.3%）	81 （40.3%）	201 （100%）
７０歳～	0	2 （1.3%）	11 （7.2%）	4 （2.6%）	33 （21.6%）	103 （67.3%）	153 （100%）
合　　計	38 （3.6%）	308 （29.2%）	81 （7.7%）	132 （12.5%）	291 （27.6%）	205 （19.4%）	1055 （100%）

年代別　生活状況



15歳～29歳代

・会社員と学生が多い。

30歳～39歳代

・会社員の男女比は、男：女＝８０：２０であり、逆に、パート・アルバイトの男女比は、男：女＝１８：８２で、女性が多かった。男性は、正規雇用されている方が多く、女性は、パート・アルバイトの方が多い。

40歳～49歳代

・３０歳代と同様に、最も多かったのは、会社員。

・３０歳代に比べ、主婦の割合が低く、その分、自営業とパート・アルバイトの割合が増えている。

50歳～59歳代

・会社員が減少するが、その分主婦が増えている。回答者の偏りが懸念される。

・パート・アルバイトの割合が他の世代より高いが、その内訳は、９８％が女性であった。

・無職の６.９％は、全て女性であった。

60歳～69歳代

・無職と主婦が多かった。無職の内訳は、男性９０％女性１０％であった。若い年代と比べ、極端に無職が増えることから、定年（定年雇用制度）退職者された男性が多いと思われる。

・また、一方では、現役で仕事をされている方が、約３０％であった。

70歳～

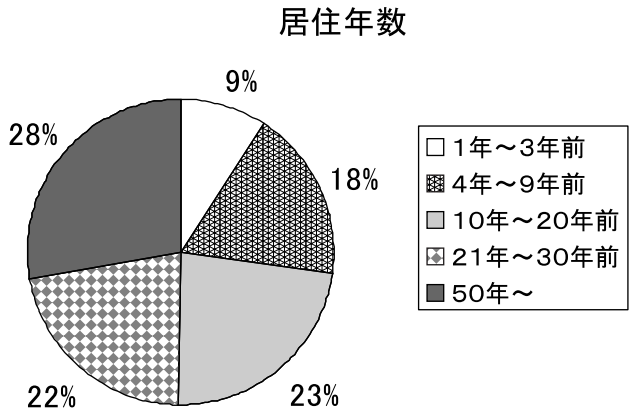
・３人に２人は、無職であり、且つ、５人に１人は主婦という結果となった。現役で仕事をされている方も極端に減少する。

居住年数

「あなたは、おおよそ何年前から、その地域に住んでいますか。」という設問にお答えいただいた。

有効回答数　1,052 名

１年～３年	97
４年～９年	189
１０年～２０年	243
２１年～３０年	231
３０年～	292



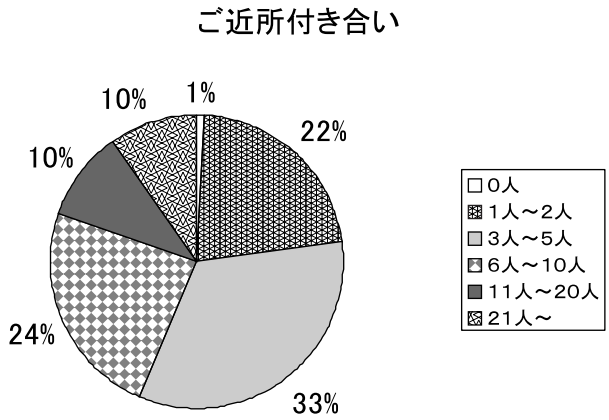
・　１０年以上居住されている方は、全体の約７３％であり、比較的長く定住されている方が多い。

ご近所付き合い

「徒歩圏内に、日頃からお付き合いのある方は、何人いますか。」という設問にお答えいただいた。

有効回答数　1,043 名

０人	９（　0.9％）
１人～２人	228（２１.９％）
３人～５人	352（３３.７％）
６人～１０人	247（２３.７％）
１１人～２０人	107（１０.３％）
２１人～	100（　9.6％）



※今回、設問の選択肢に、「０人」を設定していなかった為、選択できなかった方も多いと思われる。「０人」と回答された９名の方は、余白に記載していただいた方であり、無回答者が１６名いた。無回答者を含めると、最大で「０人」であると思われる方は、２８名（約２．６％）となる。

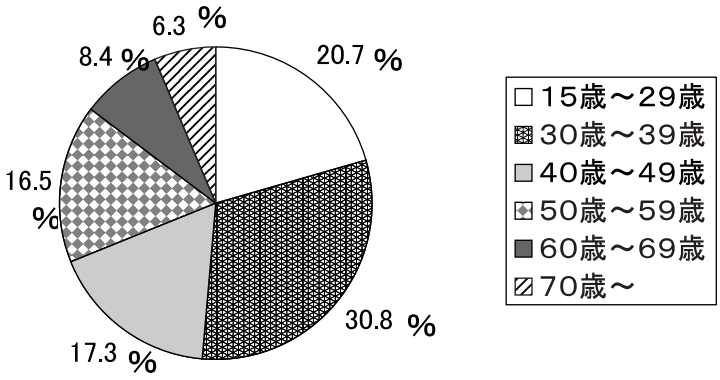
・　０人～２人と回答された方は、全体の約２３％～２５％。（約４分の１）
・　０人～５人と回答された方は、全体の約５６％～５８％。（２分の１以上）
・　１１人以上と回答された方は、全体の約２０％（５分の１）であった。

・　０人と回答した方の中で、１５歳～２９歳が２人。５０歳～５９歳が３人。また、内６人の方は、１０年以上居住されている方であった。設問の不備により回答数が少ないが、５０歳～５９歳に、３人いることが気になる。

・ 地域福祉の推進を考えると、ご近所付き合いが、１人～２人では少ない。最低３人以上であり、６人以上が望ましいのではないか。
・ 社会福祉協議会として、０人～２人と回答された方（約２５％）の方々に対して、地域住民と交流できる環境やキッカケづくりをしなければならない。

ご近所付き合いが０人～２人と回答した方（２３７名）の内訳

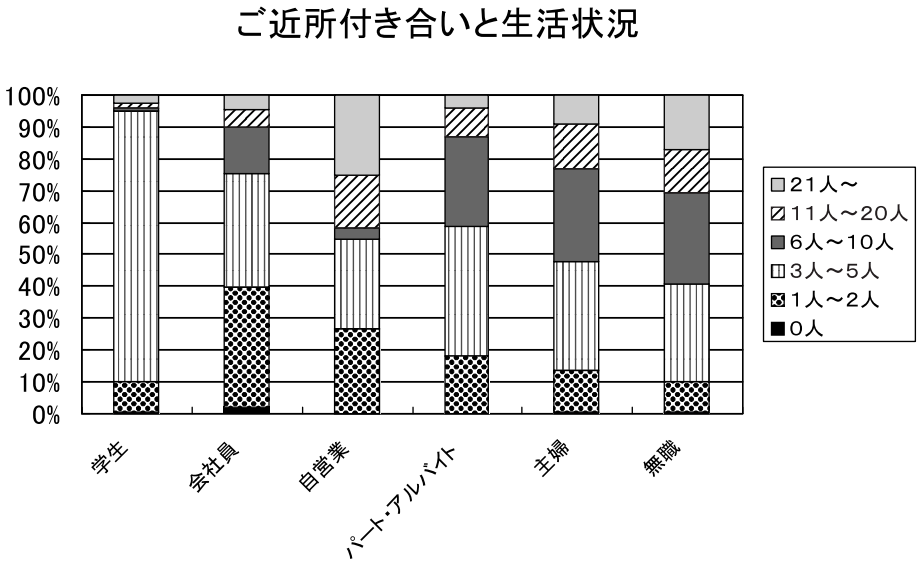
年代	回答数
１５歳～２９歳	49（２０.７％）
３０歳～３９歳	73（３０.８％）
４０歳～４９歳	41（１７.３％）
５０歳～５９歳	39（１６.５％）
６０歳～６９歳	20（　８.４％）
７０歳～	15（　６.３％）
合　　計	237（　100％）



・年代が低い方がご近所付き合いの人数が少ない。６０歳代以降については、全体の１４％ほどである。
・１５歳～２９歳代については、学生の割合が多く、同級生やその家族との付き合いが予想できる。
・３０歳～４９歳代については、ご近所付き合いが難しいと思われる会社員が約半数（４７％）を占めている。
・土日、親子で参加できる（会社員の方も参加できる）地域（公園等での）のイベントや幼稚園や保育園、子供会などでの「親同士のつながり」などがご近所付き合いのキッカケとなり得るのではないだろうか。

ご近所付き合いと生活状況

・会社員やパート・アルバイトのご近所付き合いが少ないことがわかる。一方では、自営業や主婦、無職の方は多い。

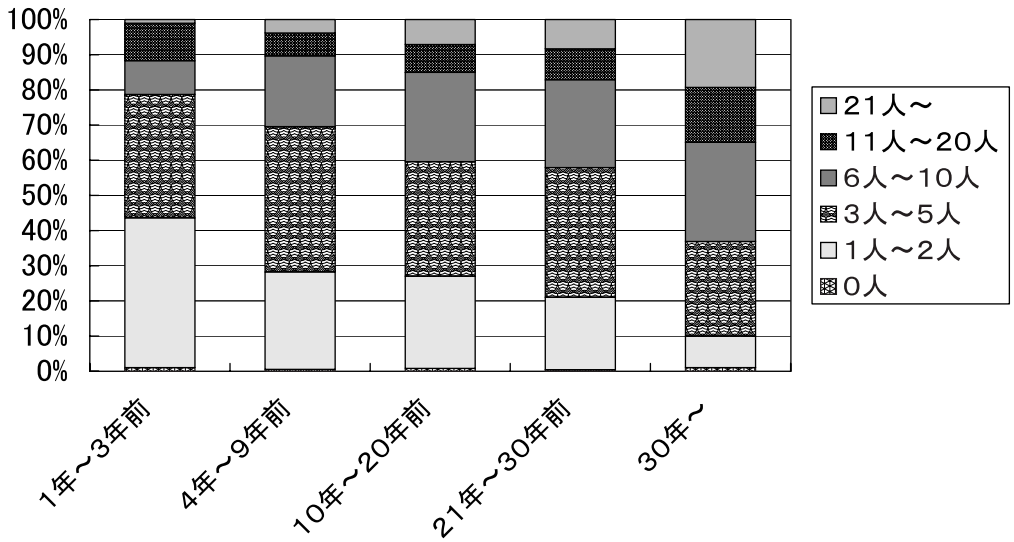


居住年数とご近所付き合いとの関係

有効回答数　1,036名

	１年～ ３年前	４年～ ９年前	１０年～ ２０年前	２１年～ ３０年前	３０年～
０人	1 （11.1%）	1 （11.1%）	2 （22.2%）	1 （11.1%）	3 （33.3%）
１人～２人	40 （17.6%）	51 （22.5%）	63 （27.8%）	47 （20.7%）	26 （11.5%）
３人～５人	33 （9.5%）	76 （21.8%）	78 （22.3%）	84 （24.1%）	78 （22.3%）
６人～１０人	9 （3.7%）	37 （15.0%）	61 （24.8%）	57 （23.2%）	82 （33.3%）
１１人～２０人	10 （9.4%）	12 （11.3%）	19 （17.9%）	20 （18.9%）	45 （42.5%）

居住年数とご近所付き合いの関係



・ 居住年数が長いほど、ご近所付き合いの人数も増えるという結果となった。同じ地域に長く居住することは、それだけで、ご近所付き合いが増える要素であり、また、先ほどの自営業の方の数値を見ても、どれだけ生活と地域が密着しているか関係している。
・ 生活の中で、地域に関わる時間が多いほどご近所付き合いは増え、地域での仕事、趣味、社会貢献活動（ボランティア）などの活動を促がすことが大切である出会いの場やキッカケづくりが社会福祉協議会の役割ではないだろうか。

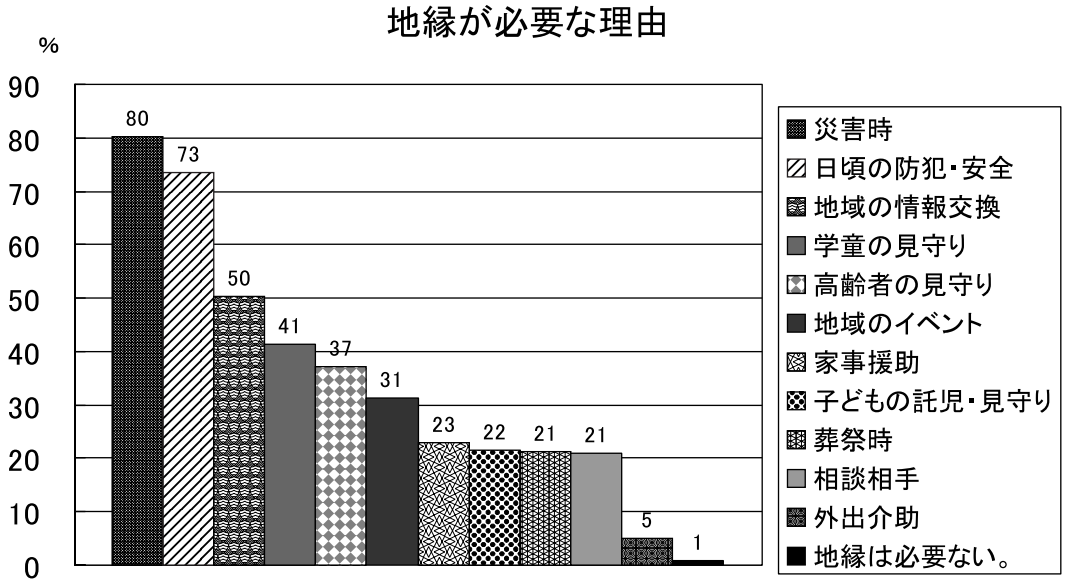
地縁（地域住民の交流や助け合いなど）の必要性

「どのような時に、地縁（地域住民の交流や助け合い）が必要だと思いますか。」という設問のお答えいただいた。

有効回答数　1,056 名（「複数回答有り」で実施。）

災害時	846（80%）
日頃の防犯・安全	776（73%）
地域の情報交換	532（50%）
学童の見守り	438（41%）
高齢者の見守り	392（37%）
地域のイベント	332（31%）
家事援助	241（23%）
子どもの託児・見守り	228（22%）
葬祭時	223（21%）
相談相手	220（21%）
外出介助	53（　5%）
地縁は必要ない。	10（　1%）

- 災害時と日頃の防犯・安全が極端に多く、また、「見守り」も多い。地縁に求めているものは、『安全』や『安心』という結果が見えてくる。
- 地縁が必要ないと回答した方は、１％以下であった。ほとんどの方が地域住民同士のつながりが必要だと考えている。
- 外出介助が少なく、外出介助は、地縁ではなく、介護保険制度や公的サービスなどで対応すべき事柄という結果ではないか。



- 外出介助以外、どの項目も数値が高く、地縁に求めている事柄が多い。
- 地縁の必要性＝個々が地域住民に求めていることは、これらの項目を地域住民で行うことが、住民（個々）のニーズに答えることになる。社会福祉協議会としても様々な事業の中で、これらの項目に取り組む住民活動（ボランティア活動・市民活動・自治会活動など）を啓発・支援していくべきだろう。

地域でのボランティア活動について

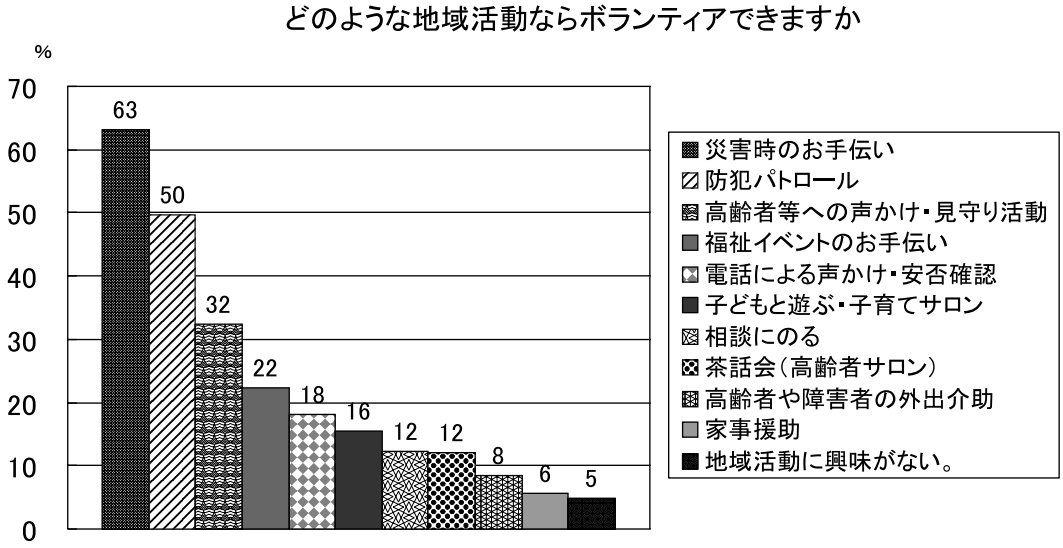
「どのような地域活動なら、ボランティアに参加できると思いますか。」という設問にお答えいただいた。

有効回答数　1,004 名（「複数回答有り」で実施。）

災害時のお手伝い	634（63%）
防犯パトロール	498（50%）
高齢者等への声かけ・見守り活動	325（32%）
福祉イベントのお手伝い	224（22%）
電話による声かけ・安否確認	182（18%）
子どもと遊ぶ・子育てサロン	156（16%）
相談にのる	123（12%）
茶話会（高齢者サロン）	121（12%）
高齢者や障害者の外出介助	85（　8%）
家事援助	56（　6%）
地域活動に興味がない。	48（　5%）

前ページの質問とは逆に、地域の住民に対してボランティア活動ができる事柄について回答を求めました。

・地縁に求めている事柄と地域のボランティア　活動の事柄が類似していることがわかりました。



地縁の必要性と地域のボランティア活動の類似点

地縁（地域住民の関わりあい・支え合い）の必要性

災害時
日頃の防犯・安全
学童の見守り
高齢者の見守り
地域のイベント

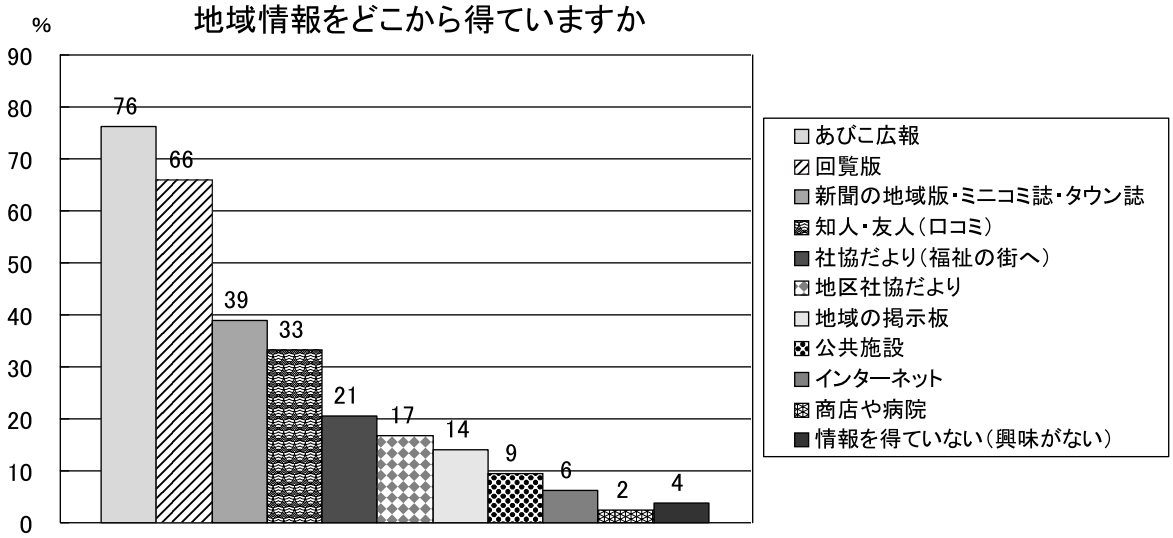
地域の助け合い活動（ボランティア活動）

災害時のお手伝い
防犯パトロール
高齢者等への声かけ・見守り活動
福祉イベントのお手伝い
電話による声かけ・安否確認
子どもと遊ぶ・子育てサロン

地域情報の入手方法

有効回答数　1,056 名（「複数回答有り」で実施。）

あびこ広報	806（76%）	
回覧版	697（66%）	
新聞の地域版・ミニコミ誌・タウン誌	412（39%）	
知人・友人（口コミ）	351（33%）	
社協だより（福祉の街へ）	218（21%）	合計 283（26.8%）
地区社協だより	176（17%）	
地域の掲示板	149（14%）	
公共施設	100（ 9%）	
インターネット	65（ 6%）	
商店や病院	26（ 2%）	
情報を得ていない（興味がない）	41（ 4%）	



- 自宅に届く「情報源」から得ている方が多く、外出しないと得られない「情報源」は、低い結果となった。
- 上位３つについては、月に２回以上の頻度で情報が届く。情報発信の頻度も影響しているのではないか。
- 情報を得ていない（興味がない）方の内、５３.７%は、会社員の方でした。
- 社協が事業として実施している情報媒体である「社協だより」と「地区社協だより」のどちらか見ている方は、２８３名（26.8%）でした。

生活状況別　情報の入手方法

学生

あびこ広報	27.5%
知人・友人（口コミ）	27.5%
回覧版	25.5%
新聞の地域版・ミニコミ誌・タウン誌	9.8%
地域の掲示板	5.9%
インターネット	2.0%
公共施設	2.0%
商店や病院	0.0%
社協だより（福祉の街へ）	0.0%
地区社協だより	0.0%

会社員

あびこ広報	28.2%
回覧版	25.5%
新聞の地域版・ミニコミ誌・タウン誌	15.6%
知人・友人（口コミ）	10.5%
地域の掲示板	6.0%
社協だより（福祉の街へ）	4.0%
インターネット	3.4%
公共施設	3.0%
地区社協だより	3.0%
商店や病院	0.7%

自営業

あびこ広報	29.6%
回覧版	28.1%
知人・友人（口コミ）	13.8%
新聞の地域版・ミニコミ誌・タウン誌	11.8%
地区社協だより	5.9%
インターネット	3.9%
社協だより（福祉の街へ）	3.0%
地域の掲示板	2.5%
公共施設	1.5%
商店や病院	0.0%

パート･アルバイト

あびこ広報	27.9%
回覧版	22.6%
新聞の地域版・ミニコミ誌・タウン誌	14.7%
知人・友人（口コミ）	10.6%
社協だより（福祉の街へ）	8.7%
地区社協だより	5.8%
地域の掲示板	4.3%
インターネット	2.4%
公共施設	2.2%
商店や病院	1.0%

主婦

あびこ広報	26.9%
回覧版	22.8%
新聞の地域版･ミニコミ誌･タウン誌	13.8%
知人･友人（口コミ）	12.3%
社協だより（福祉の街へ）	9.2%
地区社協だより	6.7%
地域の掲示板	3.8%
公共施設	3.0%
商店や病院	0.8%
インターネット	0.8%

無職

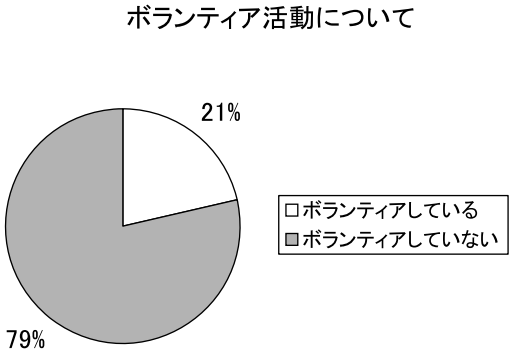
あびこ広報	23.7%
回覧版	20.7%
新聞の地域版・ミニコミ誌・タウン誌	11.8%
知人・友人（口コミ）	10.9%
社協だより（福祉の街へ）	8.9%
地区社協だより	8.2%
地域の掲示板	6.5%
公共施設	5.5%
インターネット	2.4%
商店や病院	1.5%

ボランティア活動について

「ボランティア活動をしていますか。していない理由や頻度を教えてください。（当番など仕方なく行っている活動は除く、自発的な活動のみ）」という設問にお答えいただいた。

有効回答数　974 名

ボランティアしている	209
ボランティアしていない	765

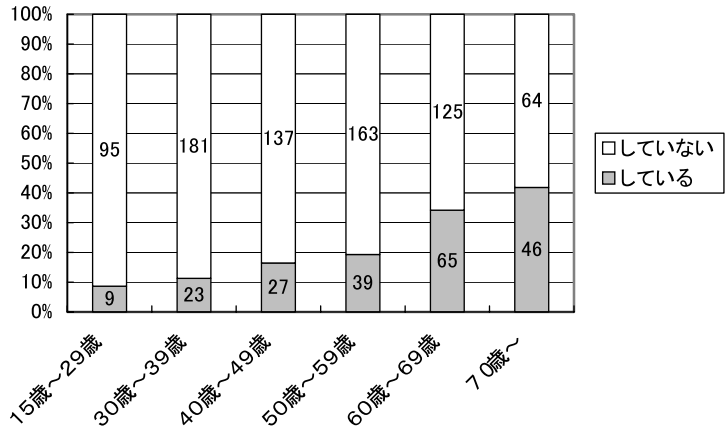


・年に１回以上、ボランティア活動をされている方は、全体の約２１％。
但し、月１回程度以上でみると約１４％になる。
・この設問に対する解答率は９２％であり、無回答８％の方々を「ボランティアしていない」に含めると、
全体約２１％→19.8%
月１回程度以上１４％→13.3%となる。

年代別の統計

有効回答数　974 名

年代	している	していない
１５歳～２９歳	９（8.7%）	95（91.3%）
３０歳～３９歳	23（11.3%）	181(88.7%)
４０歳～４９歳	27（16.5%）	137(83.5%)
５０歳～５９歳	39（19.3%）	163(80.7%)
６０歳～６９歳	65（34.2%）	125(65.8%)
７０歳～	46（41.8%）	64（58.2%）
合計	209（21.5%）	765(78.5%)

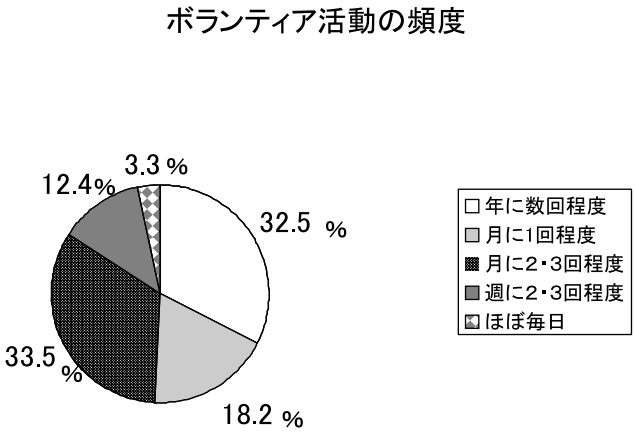


・　年代が高い方が、よりボランティア活動をされている方が多い。
・　６０歳代以降では、３人に１人がボランティア活動をしている。

ボランティアの活動頻度

ボランティアしている　209名中

年に数回程度	68（32.5%）
月に１回程度	38（18.2%）
月に２・３回程度	70（33.5%）
週に２・３回程度	26（12.4%）
ほぼ毎日	７（3.3%）



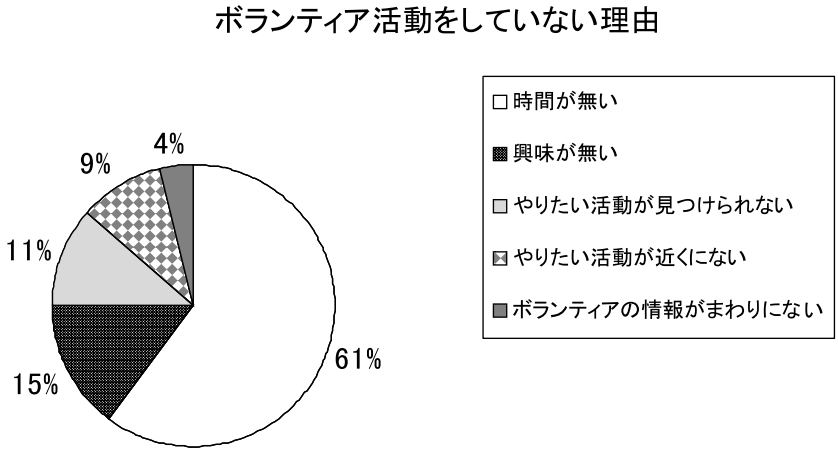
・　「月１回程度」より頻度が多い方を「ボランティア活動を定期的に行っている方」とみた場合、

全体の約１４.５％であった。

ボランティア活動ができない理由

有効回答数　846 名（「複数回答有り」で実施。）

時間が無い	509（60.2%）
興味が無い	126（14.8%）
やりたい活動が見つけられない	97（11.5%）
やりたい活動が近くにない	80（9.5%）
ボランティアの情報がまわりにない	34（4.0%）

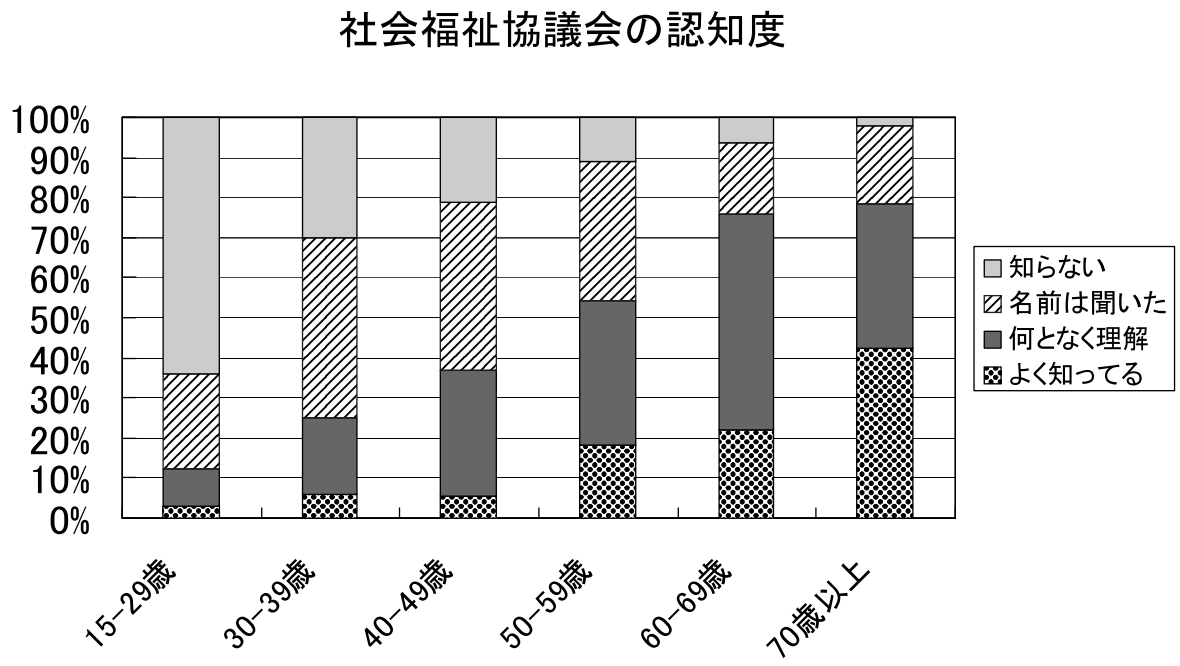


- 「やりたい活動が見つけられない。」「やりたい活動が近くにない」「ボランティアの情報がまわりに無い」と答えた方は、合計で２４％でした。この方々に、ボランティア活動の情報提供ができれば、ボランティアの担い手が増える可能性が高い。
- 同様に、「興味が無い」１５％の方についても、ボランティアに関する啓発活動を行うことで、ボランティアの担い手が増える可能性がある。

社会福祉協議会の認知度

「我孫子市社会福祉協議会をご存知ですか。」という設問にお答えいただいた。
有効回答数　1,019 名

	よく知ってる	何となく理解	名前は聞いたことがある	知らない
15-29 歳	3	10	25	68
30-39 歳	12	40	94	63
40-49 歳	9	52	69	35
50-59 歳	38	76	73	23
60-69 歳	43	105	35	12
70 歳以上	57	48	26	3
合計	162（15.9%）	331（32.5%）	322（31.6%）	204（20%）
合計２	493（48.4%）		526（51.6%）	



・　社会福祉協議会にとって、厳しい結果となった。「名前も知らない」方が２０%もいた。
・　年代が若いほど社会福祉協議会の認知度は低い結果となった。
・　他の結果からみても、社会福祉協議会が手掛ける「地域福祉」や「福祉サービス」との接点に起因しているのではないかと推測できる。

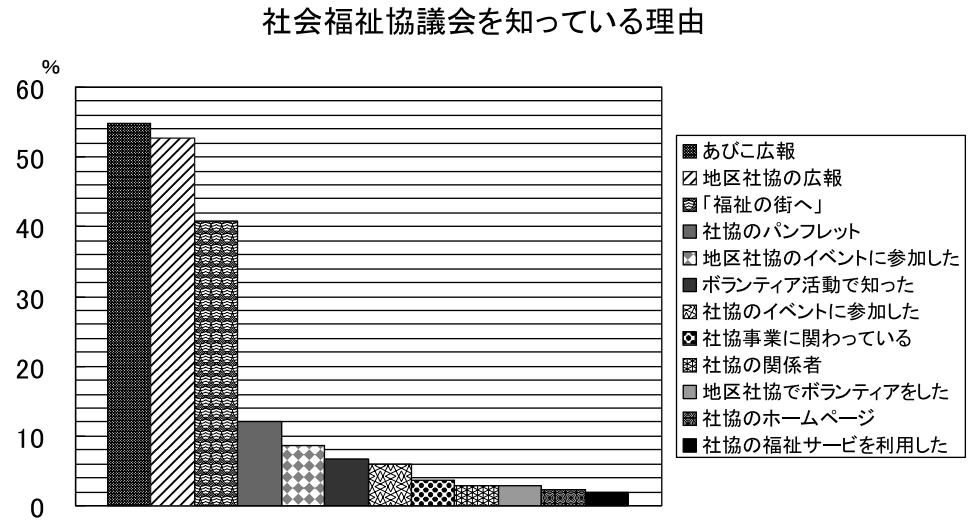
社協を「知らない」方の主な地域情報の入手方法を見ると・・・
①あびこ広報 56.9%　②回覧版 45.1%　③新聞の地域版・ミニコミ誌・タウン誌 33.8%
※社協だより１%　地区社協だより２%　情報を得ていない（興味がない）14.7%

・「あびこ広報」や「新聞の地域版・ミニコミ誌・タウン誌」などの情報媒体を活用していく必要がある。

社会福祉協議会を知っている理由

「なぜ我孫子市社会福祉協議会を知っているのですか」という設問にお答えいただいた。
有効回答数　820 名（「複数回答有り」で実施。）

あびこ広報	449（54.8%）
地区社協の広報	433（52.8%）
社協だより「福祉の街へ」	335（40.9%）
社協のパンフレット	99（12.1%）
地区社協のイベントに参加した	70（8.5%）
ボランティア活動で知った	55（6.7%）
社協のイベントに参加した	48（5.9%）
社協事業に関わっている	30（3.7%）
社協の関係者（過去も含め）	24（2.9%）
地区社協でボランティアをした	24（2.9%）
社協のホームページ	19（2.3%）
社協の福祉サービスを利用した	16（2.0%）



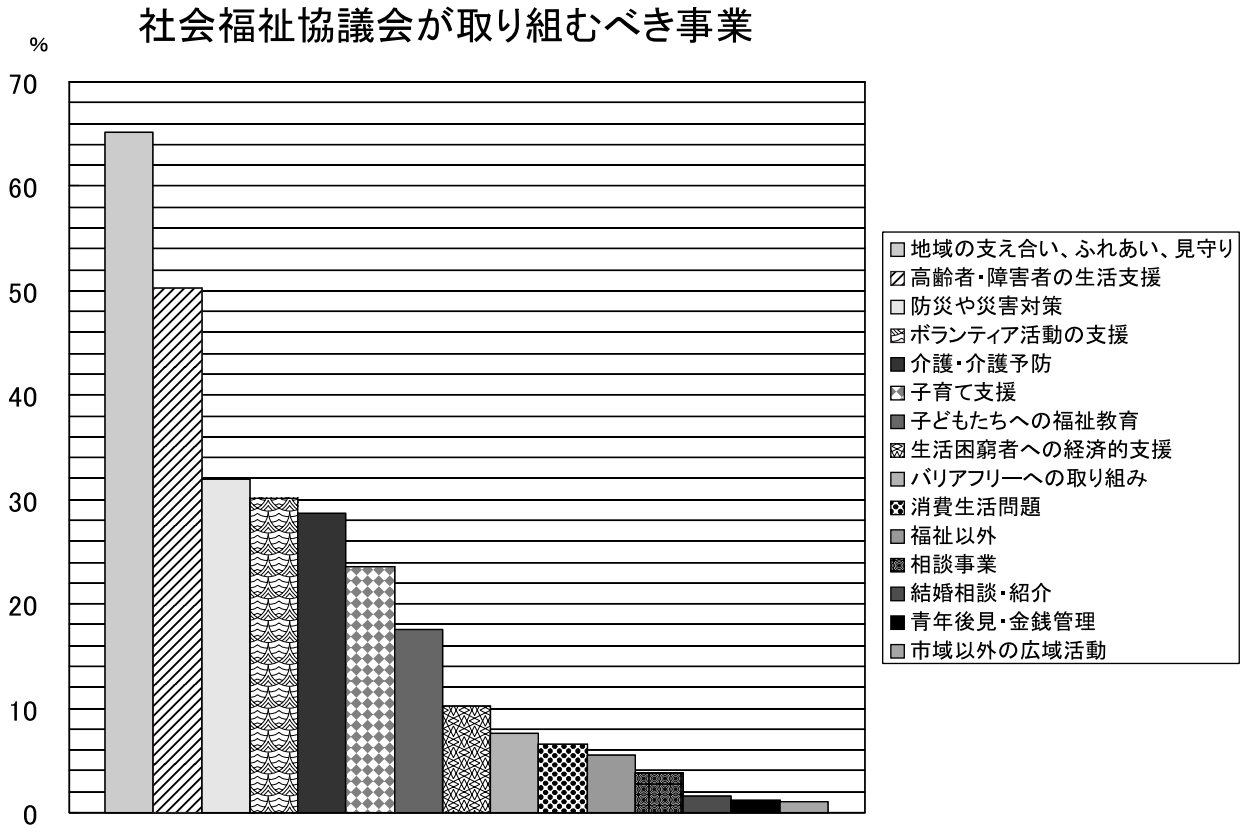
- 広報誌を見て知っているという結果となった。
- 広報誌などで、見ているが、実際に関わった方々は少ない。

社会福祉協議会が積極的に実施すべき事業について

「社会福祉協議会が積極的に取り組むべき事柄は、どれだと思いますか。**(3つだけ)**」という設問にお答えいただいた。

有効回答数　989 名（回答者に、３つ選んでいただいた）

地域の支え合い、ふれあい、見守り	644（65.1%）
高齢者・障害者の生活支援	497（50.3%）
防災や災害対策	316（32.0%）
ボランティア活動の支援	298（30.1%）
介護・介護予防	283（28.6%）
子育て支援	233（23.6%）
子どもたちへの福祉教育	174（17.6%）
生活困窮者への経済的支援	101（10.2%）
バリアフリーへの取り組み	75（7.6%）
消費生活問題	65（6.6%）
福祉以外	54（5.5%）
相談事業	37（3.7%）
結婚相談・紹介	16（1.6%）
成年後見・金銭管理	11（1.1%）
市域以外の広域活動	10（1.0%）



・ 地域の支え合い、ふれあい、見守り（65.1％）に対しての事業は、地区社会福祉協議会事業を主として実施している。これからも重点をおいて実施していく事業といえる。また、この事業を通じて、防災や災害対策（32.0％）や子育て支援（17.6％）、消費生活問題（6.6％）、介護予防なども絡めていくことができるだろう。
・ 高齢者・障害者の生活支援（50.3％）に対しては、「あい・あびこ」「移送サービス」やケアマネ・ヘルパーの派遣など生活支援事業を実施している。
・ ボランティア活動の支援（30.1％）に対しては、地区社協と共に、重点的に実施しており、この事業は、防災や災害対策（32.0％）や子どもたちへの福祉教育（17.6％）など絡めて実施している。
・ 介護・介護予防（28.6％）に対しては、今後も積極的に取り組まなくてはならない。高齢化率の増加を考えるとよりニーズが増えることが予想される。
・ 相談事業（3.7％）に対しては、「心配ごと相談事業」を実施しているが、この事業については、事業の拡大などのニーズが少ない様子。
・ 結婚相談・紹介（1.6％）に対しては、「結婚相談所」を実施しているが、ニーズが少なかった。しかし、設問が少子化対策と明記をした場合に、どうだったか気になる。「少子化対策」や「子育て支援」についても積極的に取り組む必要があるだろう。

社会福祉協議会の実施事業と住民アンケートでのニーズの違いでは、
「防災や災害対策（32.0％）」が大きかった。今後、事業を積極的に展開していく必要がある。
※従来、３回の防災対策講習会を平成１９年度は、６回実施予定。また、早期に、災害支援ボランティアセンター立上げマニュアル等の大規模災害時への備えを準備していきます。

以上

我孫子市社会福祉協議会　住民アンケート

我孫子市社会福祉協議会が行っている「地域福祉の推進」活動の為に、下記のアンケートにご協力ください。※各項目の当てはまる番号に〇を付けて下さい。

問１．性別を教えてください。　　１．男性　　２．女性

問２．年代を教えてください。

１．15 歳～29 歳　　２．30 歳～39 歳　　３．40 歳～49 歳
４．50 歳～60 歳　　５．60 歳～69 歳　　６．70 歳以上

問３．生活状況について当てはまる番号に〇を付けて下さい。

１．学生　　２．会社員　　３．自営業　　４．パート・アルバイト
５．主婦　　６．無職

問４．「住まい」は、どのような「住まい」ですか。

１．１戸建て　　２．集合住宅（マンション・アパート）

問５．あなたは、おおよそ何年前から、その地域に住んでいますか。

１．１年～３年前　　２．４年～９年前　　３．１０年～２０年前
４．２１年～３０年前　５．３０年以上

問６．地域（徒歩圏域内）に日頃からお付き合いのある方が何人いますか。

１．１～２人　　２．３～５人　　３．６人～１０人
４．１１～２０人　　５．２１人以上

問７．どのような時に、地縁（地域住民の交流や助け合い）が必要だと思いますか。

（**複数回答**）

１．地縁は必要ない。　６．子どもの託児・見守り　10．相談相手
２．災害時　７．外出介助　11．地域の情報交換
３．日頃の防犯・安全　８．地域のイベント（活気）　12．高齢者の見守り
４．学童の見守り　９．葬祭時
５．家事援助（ゴミ出し・大掃除・庭の手入れ・買い物代行・ペットの世話）

次のページへ⇒

問８．どのような地域活動なら、ボランティアに参加できると思いますか。（**複数回答**）

１．地域活動に興味がない。
２．高齢者等への声かけ・見守り活動
３．高齢者や障害者の外出介助
４．防犯パトロール
５．子どもと遊ぶ・子育てサロン
６．電話による声かけ・安否確認
７．家事援助
８．相談にのる
９．茶話会（高齢者サロン）
10．福祉イベントのお手伝い
11．災害時のお手伝い

問９．地域の事柄、催し物などの情報を、どこから得ていますか。（**複数回答**）

１．情報を得ていない（興味がない）
２．あびこ広報
３．回覧版
４．地域の掲示板
５．新聞の地域版・ミニコミ誌・タウン誌
６．商店や病院
７．インターネット
８．知人・友人（口コミ）
９．公共施設
10．社協だより（福祉の街へ）
11．地区社協だより

問 10．ボランティア活動をしていますか。していない理由や頻度を教えてください。
（当番など仕方なく行っている活動は除く、自発的な活動のみ）

１．していない ↓

①時間がない
②やりたい活動が近くにない
③やりたい活動が見つけられない
④ボランティアの情報がまわりにない
⑤興味がない

２．している ↓

①年に数回程度
②月１回程度
③月に２・３回程度
④週に２・３回程度
⑤ほぼ毎日

問 11．どの曜日・時間帯なら、市内でのイベントや講座、講演会などに参加できそうですか。マスの中に〇を付けて下さい。（**複数回答**）

	月	火	水	木	金	土	日
AM（９時～１２時）							
PM（１３時～１７時）							
夜（１８時～２１時）							

次のページ（裏面）へ⇒

問 12.「我孫子市社会福祉協議会」をご存知ですか。

１．よく知っている
２．何となく理解している　→　**引き続き、問 13. 14. 15 へ**
３．名前は聞いたことがある
４．知らない　→　**問 14. 15 へ**

問 13. なぜ「我孫子市社会福祉協議会」を知っているのですか（**複数回答**）

１．「福祉の街へ」を見た
２．地区社協の広報紙を見た
３．あびこ広報で見たことがある
４．パンフレットを見た
５．ホームページを見た
６．社協の関係者である（だった。）
７．社協事業に関わっている
８．ボランティア活動で知った
９．地区社協のボランティアをした
10．地区社協のイベントに参加した
11．社協主催のイベントに参加した
12．社協の福祉サービスを利用した

問 14. 社会福祉協議会が積極的に取り組むべき事柄は、どれだと思いますか。**（3つだけ）**

１．地域の支え合い、ふれあい、見守り活動（地区社会福祉協議会事業など）
２．介護・介護予防
３．高齢者や障害者への生活支援
４．子育て支援
５．防災や災害対策
６．成年後見や金銭管理支援
７．バリアフリーへの取り組み
８．子供たちへの福祉教育
９．生活困窮者への経済的な支援
10．ボランティア活動の支援・育成
11．結婚相談・紹介
12．相談事業・個別の支援
13．消費生活問題
14．市域以外の広域活動（難民支援など）
15．福祉以外の分野（環境・文化など）

問 15. その他、社会福祉協議会へのご意見・ご要望などありましたら、ご記入ください。

ご協力ありがとうございました。３つ折りにして、封筒に入れてください。

【内容に関するお問い合わせ】
我孫子市社会福祉協議会
電話　７１８４－１５３９